

2026(令和8)年熊本地震

病院広報にできることと前回の経験は生かされたのか？

10年前の2016(平成28)年熊本地震において、私たちは病院広報が持つ「情報の力」が、被災地の医療現場と地域住民をつなぐライフラインになることを痛感した。あれから10年が経過した今、「熊本県病院広報を考える会」が培ってきた経験とネットワークを基に、2026(令和8)年熊本地震において病院広報が果たすべき役割は何なのか。そして、前回の経験は生かされたのかを検証してみたい。

熊本県病院広報世話人 医療法人相生会にしくまもと病院 山崎幸成



◎ 熊本県病院広報を考える会とは ◎

熊本県病院広報を考える会(以下「広報会」という)は、広報スキルアップを目的に、2012年に約10人の世話人で立ち上げた広報担当者連携の会。これまで14年間でホームページや広報誌のデザイン、カメラの撮影法から健康教室の集客法など、広報に関するさまざまな勉強会を35回行い、60施設延べ1000人以上が参加している。勉強会だけでなく、合同の就職ガイダンスを行って採用力強化を図ったり(16年)、ノミネートした病院のSNSを選考して賞を授与したり(25年)など、病院広報が経営サポートにつながるよう、楽しみながら担当者同士でスキルアップを行ってきた。

まず、広報会世話人より所属病院の被害状況を報告する。